北九州工業高等		手専!	門学校 開講年度 令和04年度 (2022年度) 授業科目 情報処理				情報処理	! II					
科目基礎情報													
科目番号		0	050				科目区分		専門 / 必				
授業形態						単位の種別と単位	別と単位数 履修単位: 1						
開設学科生産デザイ			インエ	学科(物質(と学コース)	対象学年	2						
開設期前期						週時間数	間数 2						
			こよる	プログラミン	ō) 』内田 智史 (盟	监修)(オーム社)	,K-SEC教	材(情報リテラ	ラシー教材)			
担当教員					: 歩,桐本 賢太	•	,			•		,	
到達目標				,	,								
1. 必要に加 2. 条件判断	たじて適切が 新や繰り返	し処ヨ	埋を用し	て柔	利用できる(B①, B②)。 柔軟な処理を実現できる(B①, B②)。 イルへの入力や出力処理が実現できる(B①, B②)。								
ルーブリ			- 1										
				理	想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レベルの目安 未到達レベルの目安						
論理的で順序立った思考			問 て	題や課題を細 論理的に考え	分化し、順序立て ることができる。					題を細分化し ことができな			
プログラム	の読解			プI 要	ログラムを読 や手順を具体				プログラムを読み解き、処理の概 要な手順を説明できない。				
C言語の命	令や処理			説	言語の命令やが明や自由にプ る。	処理は理解し、概要 ログラムを作成で	説明や指示されたプログラムを作 が、			が、概要	語の命令や処理は理解している 概要説明やそれらを用いたプ ブラムを作成できない。		
学科の到	」達目標項	目	との関	—— 係									
教育方法													
	, ,,,	惶	報処理	Iで習	 得したプログ	ラミングの考え方を	 元に、変数、条件	上半11断切	 凸理、繰りが	返し処理、関	 数、ポインタ	などの概念	
概要		$\overline{}$				ラミングの考え方を ラミングを学ぶ時の <u></u>	基礎力を養う。						
授業の進め	方・方法	遃	宜講義	を行し	1、演習を中心	いに進める。							
注意点		情	報処理	Iの内	内容を理解して	ておくこと。							
授業の属	性・履修	》上(の区分										
□ アクテ	ィブラーニ	ング	,	V	ICT 利用		□ 遠隔授業対応	<u>7</u>		□ 実務網	経験のある教員	員による授業	
							•						
授業計画	ī												
32/2012		週		授業区	九容			调ごと	 の到達目標	<u> </u>			
		1週		,	************************************			C言語のプログラム開発の手順を覚える。					
		2週			・データ型および算術演算			C言語での計算の仕組みを理解できる。					
		2,00			_ ナーダ空のよび昇州演昇			単一の条件分岐処理を用いるプログラムを作成できる					
		3週	3週 比較		較演算, 論理演算および条件分岐(1)			平 ・ の未汁ル製煙壁を用いるノログフムを作成できる 。					
	1stQ	4週	週 条件:		件分岐(2)			複数の条件分岐処理を用いるプログラムを作成できる。					
	- H	5週	週 配列(列(1)			配列の仕組みを理解できる。					
		6週			70返し処理(1)			for 文を用いた繰り返し処理をを作成できる。					
		7週			う返り起 星(1) 合演習(1)			演習によって、ここまでの授業内容の理解を深める。					
		8週		中間記			iga con y con			200000000			
前期		T						中間試験の解説および中間試験までの学習内容を復習					
		9週		答案证	区却および解		する。						
		10ì	0週 繰り		つ返し処理 (2)			continue 文を用いた繰り返し処理をを作成できる。					
		111	1调 編り:		つ返し処理(3)			while 文および break 文を用いた繰り返し処理を作成					
	210	-	11117					できる。					
	2ndQ	 			り返し処理 (4)			多重ループを用いたプログラムを作成できる。					
					合演習(2)			演習によって、ここまでの授業内容の理解を深める。					
					合演習(3)			演習によって、ここまでの授業内容の理解を深める。					
		15ì		期末記									
		16ì	•		案返却および解説								
モデルコ	<u> アカリキ</u>	-그 ⁻	ラムの	学習	内容と到達	目標							
分類			分野		学習内容	学習内容の到達目標	票				到達レベル	授業週	
			情報リテラシー		う 情報リテラ	同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存むしうることを知っている。			ズムが存在	3			
基礎的能力	工学基礎	達		テラ		与えられた基本的な問題を解くための適切なアルゴリズムを相することができる。		ズムを構築	3				
						任意のプログラミング言語を用いて、構築したアルゴリズムを 装できる。		 リズムを実	3				
			事 機械系分野		野情報処理	プログラムを実行するための手順を理解し、操作できる。			る。	3			
						定数と変数を説明できる。			3				
						整数型、実数型、文字型などのデータ型を説明できる。		0	3				
 専門的能力	分野別の	専				演算子の種類と優先順位を理解し、適用できる。		-	3				
.5. 3=3,0073	/ 門工学					算術演算および比較演算のプログラムを作成できる。			3				
						データを入力し、結果を出力するプログラムを作			 きる.	3			
						テータを入りし、結果を山力するプログラムを作成できる。 条件判断プログラムを作成できる。		3					

#20返し処理プログラムを作成できる。 3		(0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0)								
代入や演算子の概念を理解し、式を記述できる。 3					繰り返し処理プログ	ブラムを作成できる	5。		3	
変数の概念を説明できる。 3					一次元配列を使ったプログラムを作成できる。				3	
データ型の概念を説明できる。 3 割御構造の概念を理解し、条件分岐を記述できる。 3 割御構造の概念を理解し、反復処理を記述できる。 3 与えられた問題に対して、それを解決するためのソースプログラ ムを記述できる。 ソフトウェア生成に必要なツールを使い、ソースプログラムをロードモジュールに変換して実行できる。 3 与えられたソースプログラムを解析し、プログラムの動作を予測 することができる。 主要な言語処理プロセッサの種類と特徴を説明できる。 3 ソフトウェア開発に利用する標準的なツールの種類と機能を説明できる。 アルゴリズムの概念を説明できる。 3 フトウェア開発に利用する標準的なツールの種類と機能を説明できる。 フルゴリズムの概念を説明できる。 3 ラえられたアルゴリズムが問題を解決していく過程を説明できる 3 ラスられたアルゴリズムが問題を解決していく過程を説明できる 3 ラスられたアルゴリズムが問題を解決していく過程を説明できる。 同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在 3 1 1 1 1 1 1 1 1					 代入や演算子の概念を理解し、式を記述できる。				3	
制御構造の概念を理解し、条件分岐を記述できる。 3					変数の概念を説明できる。				3	
おります					データ型の概念を説明できる。				3	
プログラミング 与えられた問題に対して、それを解決するためのソースプログラ 3					制御構造の概念を理解し、条件分岐を記述できる。				3	
									3	
情報系分野				プログラミ	与えられた問題に対して、それを解決するためのソースプログラ ムを記述できる。				3	
することができる。 3 主要な言語処理プロセッサの種類と特徴を説明できる。 3 ソフトウェア開発に利用する標準的なツールの種類と機能を説明 3 3 できる。 7 アルゴリズムの概念を説明できる。 3 ファトウェア 「ラえられたアルゴリズムが問題を解決していく過程を説明できる。 5 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1					ソノトワェア生成に必要なツールを使い、ソースフロクラムをロ				3	
ソフトウェア開発に利用する標準的なツールの種類と機能を説明できる。 3 アルゴリズムの概念を説明できる。 3 与えられたアルゴリズムが問題を解決していく過程を説明できる。。 3 同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在しっることを説明できる。 3			情報系分類	ř					3	
できる。					主要な言語処理プロセッサの種類と特徴を説明できる。				3	
ソフトウェ タラスられたアルゴリズムが問題を解決していく過程を説明できる。 同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在しつることを説明できる。										
ア 同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在 しうることを説明できる。 3					アルゴリズムの概念を説明できる。				3	
同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在 しうることを説明できる。 評価割合				ソフトウェ	与えられたアルゴリズムが問題を解決していく過程を説明できる。				3	
評価割合),					3	
	評価割合			•						<u>'</u>
MENNY ACTIONS INTERNAL AND ACTION OF THE PROPERTY OF THE PROPE	2. IMU3H	試験			相互評価	態度	ポートフォリオ	その他		
総合評価割合 30 70 0 0 0 100	総合評価割合			, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,						
基礎的能力	10.00		-			-	<u> </u>	-		
専門的能力 30 70 0 0 0 0 100					+-			1		
分野横断的能力 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	131 31 31307 3				-	1	-	-		